

## 県政モニタートーク 結果概要

対話テーマ:「これからの県立病院に求められる役割」

日時:令和4年1月16日 10:00~11:45

(新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、ZoomによるWEB会議で実施)

参加者数:県政モニター 5名(5名欠席)、県(病院事業庁) 3名

### 《頂いたご意見(抜粋)》

#### 【担うべき役割について】

- ・南部に病院が集中しており、不平等感がある。本来、県立病院として、そのようなバランスをとることも重要な役割ではないか。どこでも同じように医療にアクセスできる環境が担保されると、平等感が得られるのでは。
- ・小児保健医療センターにおいては、遠方から手術に来られる方も多いので、付き添いの方のための宿泊施設があればよい。また、在宅に帰っていくための家族の支援が必要。家族を含め、在宅への移行練習ができる施設が併設されるとよい。
- ・症状によって何科に行けばよいかわからないので、総合内科のような診療科があるとありがたい。
- ・高齢で行きたい病院に行けない人も多くなるため、往診が強化されると安心できる。
- ・病院の病院、最後の砦として、より専門性が求められる。在宅医療・看取り等、介護・福祉とどう連携するかが見えてこない。
- ・新型コロナが始まる前は、総合病院で勉強会やセミナーが実施されていた。HPやネットでも行ってほしい。

#### 【経営方針等について】

- ・コロナを機に、どの世代も医療への関心が高まったと思うので、色んな人の医療に対するニーズは聞きやすくなったのでは。医療サービスを充実するにあたり、県内施設で働ける医療従事者の確保・定着が重要。滋賀県LOVEな医療従事者が増えれば滋賀の医療を支えてくれる。
- ・民営化等で利益追求になり採算が取れない診療科や治療が切り捨てられるのではなく、現在と同様の医療サービスが継続されることを望む。
- ・経営状況を見ると、コロナの影響が大きいのではなく、根本的な問題があるのではないか。徹底的に経営改善し、抜本的に黒字経営できるようにしてほしい。

### 《県側から》

- ・総合病院の50周年講演においても、県民向けの健康講座を行った(YouTubeで公開)。今後もHP等での紹介等、機会を作っていきたい。
- ・小児センター内に宿泊室があるが、1室しかないため宿泊場所の希望は頂戴しているところ。長期間入院する方のご家族については、近くのホテル等を紹介しているのが現状であり、考えていく必要があると認識している。また、施設を考えていく上でも、在宅の支援は当然考えたい。

- ・県立病院→地域の病院→在宅に繋ぐ流れを、県の健康医療福祉部との連携のもと、県として全体的に作る必要があると考えている。県立病院として、そこでしか受けられない医療を高めていくうえで、全県型医療としての最後の砦としての役割を担うのはまさに思っているところ。政策医療、高度医療の提供に、県民の税金を使わせていただいている。全県民の医療を支える立場としてしっかり貢献できるよう取り組んでいきたい。
- ・湖南の方に病院が集中しているということは、以前からも問題となっている。立地を変えるのは難しいが、県立病院として県内医療の均てん化を考えていく上で、どこにいても同じような医療が受けられるようにするためにはどういった形にしていくべきか、考えていく必要がある。今後、遠隔医療等に積極的に取り組むことも考えなければならない。
- ・経営形態の検討は、単に民営化という訳ではない。独立行政法人化・指定管理等、様々な経営形態の検討。効率性を高め、不採算な部分も継続できる体制を取りたいというもの。不採算部門の切り捨てにはならない。現場は毎日頑張って医療に取り組んでいるが、赤字経営が続いていることが問題。病院事業には、不採算医療等に毎年40億円ほど税金を投入しているため、経営をしっかりと立て直すのも我々の使命と認識している。よい医療サービスを提供し続けていくために、経営効率が高まるのであれば経営形態を見直していくこと必要と考えている。来年一年かけて議論していきたい。
- ・医療の充実には費用がかかる。病院統合による効率性の向上や、現在の人員でできることを増やし、収益性の上昇に繋げていきたい。